



ならは交流館だより

～速報版～

平成 28 年 10 月 16 日 (日)、「第一回ならは交流館お茶飲み会」が行われました。この会は、コンパクトタウンに新しくできる交流館を、町民のみなさんの声を聞きながらつくるため、数回開かれます。会終了後に、毎回この「ならは交流館だより」を発行し、内容をお知らせしていく予定です。

20代～80代まで多くの皆さんに御出でいただき、わいわいと楽しいお茶飲み会となりました。久しぶりに顔を合わせた方も多かったようです。その時に出たたくさんの意見や楢葉への想いを皆様にお届けします。ここではその一部しか紹介できませんが、全ての意見を大切にしながら、みんなに愛される交流館を目指して計画を進めていきます。(ならはみらい)

※なんと、お茶菓子をたくさん持ち寄ってくださる方や、参加はできなかったけどお手紙で想いを伝えてくれた親子もいらっしゃいました！ありがとうございます！

司会進行は、立命館大学の乾亨教授。助手は、昨年度ならはみらいではたらいていた西崎芽衣さんです。会を楽しく盛り上げていただきました。

【聞かせて下さい、楢葉への想い！】

と題して、楢葉に対しての、皆さんの率直な意見を語っていただきました。

交流館で全世代が交流できるといい！卓球やビリヤードで遊びたい！（小学生からの意見）

A 班



< 楢葉のいいところ・好きなおところ >

- 山海の自然が美しい。天神岬は紅葉もきれいで、木戸ダムは遊歩道もある。軽登山、ウォーキングにも最適。
- 食べ物が豊富でおいしい。特に、シシタケ（別名：いのはな）は絶品。松茸より断然おいしい！

< 不安に感じているところ >

- 津波防潮堤ができて、海が見えなくなった。
- 風評被害もあって、人が来なくなってしまった。
- イノシシが多く、平均3日に1回は見かける。
- 野菜の放射線量が不安。
- 工事車両が多く、事故が起きないか不安。

< これから期待していること >

- Jヴィレッジや道の駅は、お風呂に入れたり賑わっていた。再開が楽しみ。
- 野菜やキノコも、調べながらつくれば、放射線量を防げるのがわかってきた。木戸川のシャケもはやく復活させたい。
- 高齢者が増えるので、認知症予防のセミナーなど…。
- 町の行事やスーパーなどの復活が重要

< いつもみんなで井戸端会議。気軽に立ち寄れる場所 >

- 震災前は、どこでも井戸端会議をしていて、すごく楽しかった。震災後は、井戸端会議はできる場所がない。
- 帰ってきている人には年寄りが多い。子供が帰ってくると活気が出る。楢葉に家がなくても帰ってきたら立ち寄れる場所が欲しい！
- 若い人が帰ってこない。イベント等で楢葉の良さを思い出させ、リピーターを増やすことが大切。

B 班



< 季節の行事 >

- 田植えやお祭りなど、季節ごとに行事があった。震災後は季節感が無くなった。
- 今年若い人を中心に復活した盆踊りは最高だった！

< 楢葉のなやみ >

- 「あそこに行けばあの店がある」となるといい。だから武ちゃん食堂は駅前に戻りたい。コンパクトタウンに集約しすぎると、かえって不便だと思う。
- 仮設商店街の駐車場は車が多く危ない。
- 期限付き、3交代など、安定した職場がない。

< 観光・外から人を呼び込むこと >

- Jヴィレッジが復活すれば元気が出る。昔はすごく賑わっていた。
- 昔はサーフィンをする人がたくさんいた。
- 楢葉には宿泊施設が少ないので町にお金がおちない。

< 放射線と四季 >

- 震災前は、おすそわけがあり、何でも物々交換だった。震災後はものをあげたりもらったりができなくなった。
- 楢葉は自然豊かで四季を体で感じる事が出来た。きのこ、山菜とりをしたいが、今はスーパーで買っている。
- 放射線を気にしなくてはならないのだろうが、前に進むには、各々が折り合いを着ける必要がある。

C 班



< 檜葉のいいところ >

- 花、ホテル、紅葉、鮭、白鳥、温泉
- イベント、よい自然とおいしい食べ物、美しい景色
- 病院があるのはうれしい。

< 暮らしに関する要望 >

- 住むところがない。泊るところ、食べるところがない。(特に夕方以降!) 働きたくても住むところが無くてあきらめた人が結構いる。
- 地元の食材が安く買える直売所がほしい。
- 眼科と皮膚科がほしい。
- 外の人に来て欲しい。町の宣伝のためにも檜葉の各種行事(祭り)を説明できる人がいるといい。
- 川、海で釣りができる町というのをアピールしたい。

D 班



< 田舎のままで >

- 田んぼの風景や山・川・海などの自然。とくに田んぼが春に緑色、秋に黄金色になる風景がきれいだった。雑草とてフレコンバックの風景はいやだ!
- 昔は木戸川でうなぎやなまずをとった。6月頃から木戸川の岩場で泳いだ。小学生は遊魚券がもらえ鮎をとった。鮭もとれる。海水浴場ではバーベキューもしたし、ホッキ貝もたくさんとれた。
- 牛を飼っていて、子供たちが手伝っていた。昔は牛が草をはむ場所が足りないと、国鉄から買っていた。

< 竜田、木戸駅前について >

- 駅に案内所や、駅で不在者投票ができるのと便利。
- 駅前で暇をつぶせるものがあるといい。駅に本棚があり、古い文庫本などがあるだけでもいいのかも。

< 愛着のある町 >

- 先祖代々住んでいて愛着がある。お墓も近くて便利。
- 人のつながりが強いのがいいところ。とくに行政区ごとのつながりが強い。
- 町外避難している人も帰ってこられる場があるといい。

< 夏祭り >

- 夏祭りが楽しみだった。豊年おどりを踊る。
- 檜葉だけでなく周辺の町からも人が来て、小学校のグラウンドが人でいっぱいだった。みんな他の地区の祭りにも参加していた。
- 最近は曆に関係なく行事をするようになった。

E 班



< 地域の行事 >

- 昔は「結返し」と言って、各家庭を順番に回り、お茶やお酒を飲んだり、宴会をしたりしていた。
- 「青年会」や「子ども会」、女性が生活の疲れを忘れるための「観音講」や「山の神」という集まりがあった。
- 部落ごとに、盆踊りや早起きソフトボールがあった。

< 郷土料理 >

- すいとんを各家庭で作ってよく食べていた。トルシエ監督が「マミーすいとん」と名づけ、檜葉名物になった。

< 自然豊か >

- 地域によって風景が違い全て美しい。朝日がきれいな場所や、夕日がきれいな場所、星空がきれいな場所など。
- 「ゆず香る文化の里」なので、ゆずをもっと増やしたい。

< みんなの集まる場所 >

- 地区ごとに集会所があり使われていたが、古くなってしまった。北田天満宮などの神社がある。

< 周辺環境 / 自然環境の変化 >

- スーパーやコンビニに行くと作業員の人が多くて、少し怖く感じる。作業員宿舎が多くあるとイメージが悪くなるのではないかな。
- 人が外に出なくなった。
- 遊休地が多くなった。作物を育てる人が殆どいない。
- スーパーやホームセンターが近くに無いので不便。

< これからの檜葉に期待すること / 夢 >

- 空き地を使ってフラワーロードを作り、町中を花できれいにしたい。それが観光に繋がって交流人口が増え、雇用の創出に繋がると良い。
- 町のシンボルとして鳥居を作ったらどうか。
- 若い人を増やすために、大学の分校をつくりたい。
- 以前あった木戸城をつくり、歴史や震災の展示を行う。
- ゆずを増やしたい。

【考えてみて下さい、ならば交流館ってなに？】

続いて、皆さんに配ったカードを元に、「ならば交流館ってなに？」について考えました。出された意見を元に交流館の設計が進みますので、皆さんには、真剣に意見を出していただきました。

A 班

①年齢の垣根を越えた話し相手に会える場所

・このお茶飲み会みたいで、初めてでも気軽に話せる雰囲気のある場所。

②双葉郡や浜通りの人たちも来れる場所

・「双葉郡はひとつ」という意識がある。・町外の人も来やすい場所。

③みんなで集まってご飯をつくったり、お酒を飲める場所

・お酒を飲んでそのまま泊まりたいが、民泊でも良いか。

④映画やミニコンサート、作品展示ができるような場所

・映画や音楽を気軽に楽しめる場所。・つくった野菜を販売や藍染めなどの作品が展示できる場所。

⑤みんなで見守ることで安心して子供を遊ばせることができる場所



B 班

①みんなが気軽に集まれる場所

・お茶のみや買物ついでに立ち寄れる場所。・おしゃれなカフェ図書館。商業ゾーンと一緒にイベントが出来たり…。

②若者が帰りたくなる場所、帰って来易い場所

・楡葉町の人だけでなく双葉郡浜通りの人たちみんなが魅力的に思う場所。・若者が来てくれるイベントが出来る。・果樹を植え季節毎にこどもも年寄りも楽しめる場所。・コンクリートの塊でなく、自慢できる印象的なデザイン。

③安心して子育てできる場所

・「ここに子供がいれば安心」という場所があれば、親世代が帰ってくる。

④「ここに来れば、楡葉の情報がわかる」場所

・一箇所で楡葉のことが分かる、外来者にとっても利便性が高い場所。



C 班

①楡葉町のことがわかる場所（歴史、震災、文化、人）

・町の歴史、震災から学んだ事だけでなく文化や町民も含めて、来れば楡葉のことがわかる場。

②双葉郡、浜通りの人（楡葉より厳しい状況にある方々）や外からの人に来て、交流できる場所

・双葉郡、浜通りの方もならば交流館に定期的に立ち寄ることで将来帰町しやすくなるのではないかな。

③町内の方々（お年寄り、子ども）が集まりやすい場所

・お年寄りがご飯を作って子どもが食べたり、気軽にサークル活動ができる。

④平時に、ゆっくり過ごせる（学習、読書）場所。災害時に頼れる場所

⑤直売所、古本市、フリーマーケットができ、みんなで楽しく交流できる広場



D 班

①交流ができて泊まれる場

・楡葉に家がない人も来られる場所。立ち寄ると町の歴史やニュース、復興状況が分かる。ボランティアや外の人にも。

②楡葉らしさを体験できる場

・昔からやってきたことを次世代に伝え教える場。農業体験もできる。

③みんなで集まりお茶とお酒が楽しめるオシャレな場所

・気軽におしゃべりでき、カラオケもあると歌って飲める。

④映画上映会やフリーマーケットなど、イベントができる場

・壁で区切られて使い方が決まっていないうが、自由に使える。

⑤本や学習を楽しみ、学生や子供がゆっくりと勉強ができる場所



E 班

①歴史や震災の記憶を後世に伝える場所

・そこに行けば何でも分かる場所。歴史や震災の記憶の展示をする場所があれば、大きな存在になると思う。

②みんなが繋がる、集える場所

・飲んでワイワイ出来て、時間を気にせず集まる場所。

③「ついでに」寄れる場所

・目的があって来るのではなく「ついでに」ということが大切。

④人を呼ぶ場所

・いい若者ばかりよそ者が町をつくる。来た人を大切に出来る場所→交流人口の拡大。

⑤「縁」を作る場所

・人との縁は大切。縁を結ぶ場所があればいい。たとえば縁側。おじいちゃんたちにいろいろ教えてもらえる場所。



最後に、みんなで、敷地に行ってみました。

【敷地に立って感じたことは？】

敷地に立って、みんなで、この場所がどうなるか、説明を聞きました。そのうえで、どのような場所を担ってほしいか、皆さんの意見を寄せていただきました。



商業・交流ゾーン建設予定位置図



< 年寄りと子どもが安全に行き来できる >

コンパクトタウンの商業施設と交流館の間に、通路に、車がたくさん横切りそう…。子どもと年寄りの安全を考えてほしい。

< 買い物途中で立ち寄りやすくしてほしい >

買い物の途中で、みんなで井戸端会議が出来るような施設にしてほしい。

< 誰でも立ち寄りやすい工夫 >

年寄りから若者、こども、女性まで、様々な人たちが内外問わず個々に立ち寄るきっかけを、うまくつくて欲しい。そうすれば自然に交流が生まれる。

【みんなの「ならは交流館(仮)」を創るためのお茶飲み会 今後の予定】

- ◆日時 第2回 11月6日(日) 14:30~17:00
- 第3回 11月27日(日) 13:30~16:00
- 第4回 12月18日(日) 13:30~16:00

◆場所 あおぞらこども園サロン「ふらっと」

◆対象者 参加自由

◆主催 榎葉町

◆問合せ 榎葉町復興推進課 0240-23-6103



次回(11月6日)は、いよいよみんなで交流館のプランやデザインを考えます! 難しい議論でなく遊び感覚でアイデアや思いを出していただければいいので気楽に参加してください。お待ちしております!